

留 学 報 告 書

記入日： 2019年9月19日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部政治学科
留学先国	イギリス
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文： ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス 現地言語： London School of Economics and Political Science
留学期間	2019年6月～2019年8月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年8月23日
明治大学卒業予定年	2021年3月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月下旬～1月中旬 2学期:1月中旬～6月中旬 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	学部生 4,810人(2016/17)、大学院生 6,395人(2016/17)
創立年	1895年

留学費用項目	現地通貨 (ポンド)	円	備考
授業料	5,965	80万円	トップユニバーシティ奨励金
宿舍費	5,890	79万円	トップユニバーシティ奨励金
食費	1,864	25万円	
図書費	223	3万円	
学用品費	74	1万円	
教養娯楽費		円	
被服費	74	1万円	
医療費		円	
保険費	149	2万円	形態:明大サポート経由
渡航旅費	1,715	23万円	トップユニバーシティ奨励金
雑費	298	4万円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計	16,401ポンド	220万円	2か月半の留学でかかった費用です。

渡航関連

渡航経路:羽田空港—ヒースロー空港(直行便)

渡航費用

チケットの種類 エコノミークラス
 往路 _____
 復路 _____
 合計 226,220 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

航空会社は ANA を利用しました。

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

LSE の寮 (1 週目は、Bankside House、2 週目~10 週目は High Holborn Residence)

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 _____)

3)住居を探した方法:

LSE の web ページ。去年留学していた明治の先輩からの情報。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私は、初めの 1 週間の英語準備コース時は Bankside House に、その後本セッションの 9 週間は High Holborn Residence に滞りました。どちらの寮も綺麗で、快適でした。本セッション時には、7 個ほどの寮から自由に選べますが、High Holborn Residence はキャンパスから徒歩 10 分ほどと近く、受付の方も丁寧で、さらに朝食を寮内で食べられるので寮選びに迷っている方は、High Holborn Residence をお勧めします。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会がなかった
利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

サマースクールオフィスがあったので、そこに行きました。私は去年アメリカ UC パークレーのサマーセッションに参加したのですが、その時はパークレーに四年間通っている生徒たち用のオフィスに行かなくてはならなかったため、職員がサマーセッションにあまり精通していませんでした。それに比べ LSE は夏休み期間はサマースクールだけを行っているため、LSE 生ではない私たちへの事務的な対応には慣れていたと思います。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

外務省が配信しているたびレジに登録していました。貴重品については常に気を付けていたので、盗難被害にあうことはありませんでした。しかし、道で一度だけ知らない 40 代くらいの女性が叫びながらいきなり私に向かってコーラをかけてきました。リュックが少し匂う程度で済んだのですが、かなり落ち込みました。夜遅くではありません。午後 8:40 くらいでまだロンドンはかなり明るいのです。その女性は、もともとから叫んで歩いていたのでドラッグをやっている人だと思い、通りすぎるのを待っていたのですが、急に方向転換し私の方へ近づいてきました。その後私は色々なことを考えました。果たして、私がアジア人で体が細くて弱そうだったからその女性は私にコーラをかけてきたのでしょうか。もちろん、明らかに薬をやっているような人だったのでその人が例外なだけで、ほか 99%以上のイギリス人はそんなことをしないので安心してください。ただ、薬をやっているあの女性でも、もし私が白人で体が大きければ同じことをしてきたのでしょうか。

その他にも、道を歩いているだけで白人のイギリス人男性に怒鳴られることがありました。私は、体つきが細く、ボタンのある服を着ているといったところからいかに典型的なアジア系アジア人なので、Brexit 賛成の、外国人が好きではないイギリス人に目を付けられやすかったのかもしれない。勿論ほとんどのイギリス人は道で怒鳴ったりしてこないのが大丈夫です。ただ、ABC(American born Chinese)をはじめとするアジア系アメリカ人が、なぜジムに通い筋肉をつけて、服装も T シャツ、女性は肌の露出が多い服を着て、白人に寄せようとしているのかが何となく理解できました。白人に近い格好だと典型的なアジア系アジア人の見た目の人と比べて、私が遭ったような被害にアメリカやイギリスで遭う確率は減ると思います。ただ、だからといってもうコーラをかけられたくないから、服装や体格をアメリカ人イギリス人に寄せようとは思いません。私は、今後アメリカやイギリスに住んでもジムには行かないと思いますし、ボタンのある服を着続けていきます。私はこのスタイルに誇りを持っているからです。この欄の趣旨とは若干ずれますが、アメリカなどでは、今でも白人 > アジア人という認識があると思います。皆平等と口で言うのは簡単ですが現実とは違っています。これから 20 年 30 年とゆっくりでも人種みな平等になるといいなと強く思いますし、私も何かできることをコツコツ続けていきます。

<p>4)パソコン, 携帯電話, インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。 (例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので, 寮で使用できない時はカフェに行った。)</p> <p>寮とキャンパスでは eduroam という明治大学学生全員が入っている国際 wifi を使用しました。非常に便利でした。他にも LSE 専用の wifi もあるので wifi について心配することはないと思います。しかし、外どこにでも wifi があるわけではないと思うので、データが使える sim などがあると良いと思います。</p>
<p>5)現地での資金調達はどのように行いましたか？(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)</p> <p>国際クレジットカードを持っていき、現金はほとんど使いませんでした。ロンドンでは基本的にどこでもクレジットカードが使えるので、現金をそこまで多くもっていなくても大丈夫です。</p>
<p>6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。</p> <p>専門分野の日本語の教科書を数冊持っていきました。何かお気に入りのものがある方は持っていくと良いと思います。</p>
<p>7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法, 支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った, 現地で開設した銀行のチェックで支払った, 渡航前に留学先大学から指示があった, 渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)</p> <p>渡航前 2 月にオンラインで履修登録をする際にクレジットカードで支払いました。</p>
<h2>卒業後の進路について</h2>
<p>1) 進路</p> <p><input type="checkbox"/>就職 <input checked="" type="checkbox"/>進学 <input type="checkbox"/>未定 <input type="checkbox"/>その他:</p>
<p>2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など</p> <p>インターネットの日本人のブログ、エージェント、大学院のホームページ、先輩方の話、明治大学の教授の話</p>
<p>3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。</p>
<p>4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。</p>
<p>5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。</p> <p>まだ最終決定ではありませんが、アメリカの大学院に進学したいと考えています。</p>
<p>6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。</p> <p>アメリカの大学院に進学するためには、高い GPA(トップ校は最低 3.7 くらい)、TOEFL iBT もしくは IELTS のスコア(最低 TOEFL iBT 100, IELTS 7.0)、アメリカの大学院の場合は GRE を受ける必要もあります。イギリスの大学院の場合は、GRE が基本ないので準備が少し楽にはなると思います。それでも、準備を始めるのに早すぎるということはないので、早めにテストの準備、また複数の先輩や教授の話を聞いて、実際に大学院進学する興味と適性があるのかを見極めることが大切だと思います。</p>
<p>7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。</p>

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
IR211: America as a Global Power : FDR to Trump	世界大国としてのアメリカ: フランクリン・ローズベルトからトランプまで
科目設置学部・研究科	International Relations
履修期間	セッション 1 (6/17-7/5)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 3 時間とディスカッション 1 時間半が分がそれぞれ 5 回、つまり 1 日 4 時間半が月曜から金曜まで週 5 回
担当教授	Professor Peter Trubowitz
授業内容	第二次世界大戦から現在までのアメリカ外交をアメリカ大統領の役割に焦点を当てながら分析していきます。扱う大統領としては、フランクリン・ローズベルトから現在のドナルド・トランプまでの全てのアメリカ大統領を扱います。メインの本として、Peter Trubowitz 教授自身の、“Politics and Strategy”と John Lewis Gaddis の“Strategies of Containment”を使いました。第二次世界大戦後の外交ということで冷戦時にアメリカがどうい国政術を取ったかが 1 つ目の主要なテーマになっています。そこではアイゼンハワー大統領、ケネディ大統領は対象的アプローチをとったのか、非対称的アプローチをとったのかなど少し高度な内容も出てきました。冷戦後から現在のトランプ大統領までも扱うので、まさに 21 世紀の今にもつながるアメリカ外交を学べます。“Grand strategy”大戦略とは何か。国際政治と国内政治が大戦略形成に与える影響など、アメリカの大統領の外交戦略を通して、外交戦略形成に通ずる理論を学びます。
試験・課題など	Mid-term essay (1,500 words)と final exam(2 時間で 8 問から 2 問選んで論述する形式)があり、mid-term essay 50%と final exam 50%の計 100%で成績が決まります。
感想を自由記入	<p>マイノリティの気持ちがわかりました。履修者約 50 人中、9 割がアメリカ人でした。50 人中アジアからの学生は私を含め 4,5 人だけでした。教授もアメリカ人なので、まるでアメリカにいるような気分でした。彼らは、アメリカの政治を高校の授業で一通り習っているし、また普段アメリカ政治についてニュースから情報を毎日得ていると思います。アメリカ外交についての知識量はわたしより遥かにありました。次に、英語についてですが履修者の 9 割がアメリカ人で英語を母国語とする学生でした。私は講義で教授の話していることは聞き取れましたが、アメリカ人の生徒とのディスカッションでは生徒の話していることがほとんど聞き取れませんでした。私は出発前に TOEIC 975 点あり、英検 1 級も合格していましたが、この授業の英語だけに関して言えば、冗談抜きで、大学生の中に私 1 人小学生がいる感じでした。昨年アメリカの UC バークレーのサマーセッションに留学した時よりもアメリカ人が多かったです。LSE の修士では留学生率は 60%以上なので、英語に関しては LSE 修士より遥かにきつかったと思います。</p> <p>ディスカッションクラスではアメリカ人のテーブルと留学生(私、中国人、ブラジル人)のテーブルとで分かれていました。アメリカ人は基本的にアメリカ人意外とはつるまいません。一度他の中国人留学生がプレゼンテーションをしている時に、アメリカ人学生がパソコンのメッセージでチャットするなど全く発表を聞かないということがあり非常に悲しかったです。英語がネイティブなアメリカ人がそんなに偉いのか理解に苦しみました。この授業を受けた 3 週間は、授業内容がアメリカ中心なところとアメリカ人学生の英語がそこまで上手くない生徒に対する態度の悪さ(私の偏見もあると思いますが)など、ずっともやもやしていました。しかし、自分がマイノリティになったこの経験のおかげで、弱い立場の人の話を聞いてあげることの大切さ、温かさを改めて感じる事ができました。</p> <p>この授業のエッセイではあまり良い結果が出せませんでした。しかし、クラスの非ネイティブである中国人の友達がエッセイでほぼトップの点数を取っていたので読ませてもらい、それがその後のセッション 2、セッション 3 での授業に大いに役立ち、それらの授業でかなり良い結果につながったので、このセッションでの挫折は意味あるものだったと思っています。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
IR201: Power Shift: The Decline of the West, the Rise of the BRICS and World Order in a New Asian Century	力の変化: 西洋の衰退、BRICS の隆盛、アジアの世紀の世界秩序
科目設置学部・研究科	International Relations
履修期間	セッション 2 (7/8-7/26)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 3 時間とディスカッション 1 時間半が分がそれぞれ 5 回、つまり 1 日 4 時間半が月曜から金曜まで週 5 回
担当教授	Professor Michael Cox
授業内容	21 世紀初めは、アメリカ極体制により支えられた平和と繁栄の時代が来ると信じられていました。しかし、2001 年 9 月 11 日のアメリカ同時テロ、2008 年の世界金融危機発生などから、多くの学者がアメリカ、ヨーロッパの力の衰退を指摘するようになりました。そしてその力は、南へ東へ少しずつ移動し始め、アジア、中国、そして BRICS といった地域の急激な成長が世界の力関係に変化を与えようとしています。ここ数年でも、イギリスの EU 離脱問題、アメリカ第一主義を掲げるトランプ大統領の当選など、世界のシステムが不安定になりつつあるとみられることもできます。専門家の中には、自由な世界秩序が危機にあると指摘する人もいます。この授業では、①どのようにこれらの変化が起こったのか。②何が国際情勢に影響を与えてきたのか。③世界はどこに向かっているのか。これら主に 3 つの問いを中心に、第一次、二次世界大戦、冷戦、ヨーロッパ情勢、2008 金融危機、アジアの世紀、中国、BRICS、中東など包括的に国際関係学を学びます。今につながる熱いテーマを、国際関係学の理論を駆使しながら探求していく、国際政治学に興味がある人には必ず履修してほしい授業です。
試験・課題など	Mid-term essay (1,500 words)と final exam(2 時間で 10 問から 2 問選んで論述する形式)があり、mid-term essay 50%と final exam 50%の計 100%で成績が決まります。
感想を自由記入	<p>エッセイで履修者 44 人中 1 位を取ることができました。私は今まで比較政治学という世界の国内政治に興味があったのですが、今回は学んだことのない国際関係学を履修し、興味の幅を広げたいと思いこの IR201 を選びました。やはりアメリカだけに焦点を置いた前セッション IR211 に比べ、アジア(主に中国)など世界中の国際関係を見ることができ興味深かったです。毎授業 2 つくらいの 10-15 ページくらいの論文を読んでもる形になっていて、論文の面白さに気が付きました。</p> <p>良かったこととして、中間エッセイで履修者全 44 人中 1 位の 73 点を取ることができました。ひたすら時間を使い、気持ちを込めて書いたので、最高得点をとることができたのは非常に嬉しかったです。履修者のうち誰よりも勉強することは心がけていたので、それが良い結果につながったのだと思います。クラスの半数はアメリカ人だったので、私は英語ができませんが、それでもネイティブよりも良い結果を出すことができるんだと自身になりました。</p> <p>もう一つ、セルビア人 PhD 生のクラスティーチャーの能力の高さに非常に感激しました。彼女は 25,6 歳なので私の 5 つ上くらいですが、説明の上手さ、積極さ、ノンネイティブとは思えないくらい英語が上手く、アメリカ人学生の発言に対し、全くひるまず反駁したりするところに驚きを隠せませんでした。私はあと 5 年で彼女くらいのクラス運営をアメリカやイギリスでできるのでしょうか。このままだと間に合わないと思います。やはり、院生のころからこのように学部生のクラスを持つ経験をするという構造が、欧米の大学での授業の教育の質の高さ(研究レベルの高さとは言っていません)に貢献しているのだと思いました。構造的な問題です。良い刺激を受けました。何よりこの授業が非常に楽しく、今後 IR 国際関係(国際政治)の分野に進みたいと思えたことが一番の収穫です。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
IR207: Development in the International Political Economy	国際政治経済の中での開発学
科目設置学部・研究科	International Development
履修期間	セッション 3 (7/29-8/16)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に講義 3 時間とディスカッション 1 時間半が分がそれぞれ 5 回、つまり 1 日 4 時間半が月曜から金曜まで週 5 回
担当教授	Professor Tim Forsyth
授業内容	この授業は、開発学を一通り網羅して学ぶコースです。IR department に設置されていることからわかるように、数式を使った経済学は出てきません。戦後、開発学という学問分野が登場し、そのアプローチが構造主義、新自由主義、そして参加型開発といったどのように変化していったかを途上国の実例と時代時代で影響力を持った理論家の理論とともに学んでいきます。複数のアプローチを自身で比較検討し、主張を持つことを促してくれます。中間エッセイは、自身でと途上国を一つ選び、10 あるテーマ(貿易、統治、経済成長、気候変動など)から 2 つ選びそれらの関係性を主張する形です。
試験・課題など	Mid-term essay (1,500-2,000 words)と final exam(2 時間で 8 問から 2 問選んで論述する形式)があり、mid-term essay 50%と final exam 50%の計 100%で成績が決まります。
感想を自由記入	<p>最終的には、全 3 セッションの中で一番良い結果を出すことができました。私は、開発の分野に進もうとは思っていませんが、ゼミでアジアの開発の歴史を少しやっていること、政治学だけでなく、経済学に近いようなところも今後の視野を広げるために勉強しておきたいと考え履修しました。毎日の授業で「経済発展」「貧困」などかなり広いテーマを学ぶので、初めはついていくのが大変でした。しかし、中間エッセイで、ベトナムの経済発展と統治の関係について新自由主義アプローチを批判しベトナムの統治が経済に好影響を与えると書き、履修者 48 人中 2 位の 71 点を取ることができました。</p> <p>この授業では、最終成績も最高評価の A を取ることができ、履修者 48 人中、最高評価の A は私を含め 2 人だけでした。</p> <p>ディスカッションについては、まだアメリカ人が何を言っているのかわかりませんでした。私のように IELTS 7.0 くらいだと圧倒的に英語ができません。それでも逆説的になりますが、半分がネイティブのクラスでトップの成績をとることはできます。誰よりも時間をかけて勉強をすれば、良い結果を得られるとわかりました。開発学は日本人でイギリスの修士に行く人が本当に増えています。私は、開発学に進もうとは思っていませんが、私のように政治学や国際関係学の方に興味がある方もこの IR207 は開発学の理論、実例を網羅できる魅力的なコースだと思います。</p>

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2017年 1月～3月	1月 初めて TOEIC を受験する。
4月～7月	4月 明治大学に入学。 二年の春学期にカリフォルニア大学バークレー校のサマーセッションズに留学すると決意。
8月～9月	家で夏休みの期間、英語の勉強をする。
10月～12月	11月 TOEFL iBT 初受験。 12月 カリフォルニア大学バークレー校サマーセッションズの留学希望を明治大学に提出。
2018年 1月～3月	2月 サマーセッションズの履修や寮の手配をオンラインで行う。 2月～3月 フィリピンに一月間、語学留学をする。 3月 フィリピンから帰国後、ビザ面接。 サマーセッションズ前最後の TOEFL iBT 受験。
4月～7月	5月～8月 カリフォルニア大学バークレー校サマーセッションズに留学。
8月～9月	家で夏休みの期間、英語の勉強をする。
10月～12月	英検、TOEFL iBT 受験。LSE サマースクールへの留学の出願。
2019年 1月～3月	2月～3月 シンガポールの食品卸売業者でインターンシップ
4月～7月	6月～8月 LSE サマースクールに留学
8月～9月	家で TOEFL iBT の勉強、政治学、国際関係学の勉強
10月～12月	TOEFL iBT 受験

留学体験記

<p>留学しようと決めた理由</p>	<p>今回私が留学を決意した理由は、卒業後も政治学の分野でアメリカあるいはイギリスの大学院に進学するだけの興味、そして本当にやっていける能力があるのかを確かめるということでした。昨年大学 2 年時に UC バークレーのサマーセッションに参加して、皆真剣に勉強する姿、いくら勉強しても変な風に見られない、本来学問をする上であるべき環境に取り憑かれました。アメリカやイギリスでは、学問をして、PhD をとるとそれがアカデミアでも民間企業でも非常に価値あるものとみなされます。そうあるべきだと思いますし、そうして国が発展していくのだと思います。</p> <p>昨年の UC バークレーサマーセッションは、私にとって初めて学問を英語で学ぶ留学ということもあり、納得のいく結果は得られませんでした。そこから一年間、大学 3 年時の春学期にもう一度バークレーレベルのトップスクールに留学し、今度は結果を出す決意し、大学 2 年の 8 月の帰国後から大学 3 年時の 6 月まで日々英語学習と政治学の勉強に取り組んできました。そして、この 2 回目のサマースクール留学で限界まで必死で勉強し、自分はどこまでできるのか、適性があるのかないのかを見極め、海外大学院進学か就職かを決めるというのが留学しようと決めた理由です。</p>
<p>留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備</p>	<p>LSE はイギリスにある大学ですので、英語力があればあるほど良いでしょう。私は、渡航前 TOEIC 975、英検 1 級、TOEFL iBT 96、IELTS 7.0 でしたが、言語の面でかなりの苦勞を伴いました。この英語力で良い成績を取ることはできましたが、講義、ディスカッションで満足した理解、発言ができるレベルには程遠いです。また、ファストフード店やレストラン、スーパーなどで英語ができないことにより、かなりの苦勞を伴いました。ですので、できれば LSE サマースクール渡航前に TOEFL iBT 110 か IELTS 8.0 くらいあると良いでしょう。明治大学入学後から一日も休まず勉強を続ければ達成不可能なレベルではないです。驚いたことに、LSE サマースクールには、英語を母語としない学生の中にもありえないくらい英語ができる人が多くいました。TOEFL iBT を受けたら、120 点満点中 150 点くらい出すのではないかとという人たちが多くいました。皆さんが英語の母語話者ではない限り、英語の勉強を続けると留学がより豊かなものになると思います。</p> <p>もう一つ、普通のアドバイスになりますが、皆さんが勉強したいと思っている分野の知識をどれだけ蓄えておけるかも重要です。LSE サマースクールに来る学生は、優秀な人が多いと思いました。LSE 生はいませんが、GPA3.3 以上という参加基準により、参加者皆各々の大学で勉強してきている人たちがばかりでした。一度、セッション 1 の授業で教授が「民主化の第三の波」を書いた学者は誰だか、名前が出てこないんだけど誰だっけ」のようにぼそっと言ったときに私は、「あっ、ハンティントンだ、知ってる。勉強してきたかいがあったぞ」と心の中で思ったのですが、アメリカ人学生ほぼ全員が「Huntington」と声をそろえて言い驚きました。普段から彼らは大学で膨大な量の課題をこなし、授業を乗り越えてきています。勿論、これは構造的な問題なので日本の学生が悪いなど言いたいわけではありません。その分、大学外の活動などに時間を当てられるので、在学中に学外で何か活動を積極的にやっている学生は日本の大学生の方が外国の学生より多いのではないかと個人的には思っています。構造上の利点もあるのです。しかし、やはり大学に入ってから学問的な知識、思考能力ではアメリカなどの学生に差をつけられてしまう傾向があります。ですので、渡航前から意識的にそのギャップを埋めるよう努力して追いつき、追い越すことが大切になってくるでしょう。</p>

この留学先を選んだ理由	<p>私は、昨年アメリカのバークレーサマーセッションに参加したことから、今回はイギリスの大学に留学したいと考えていました。そして、アメリカとイギリスで比較して、どちらの国の大学院に進学するか決めたいという思いがありました、その中でもLSEはQSの2019年世界大学ランキングで社会科学の分野でハーバード大学に続き世界2位となっています。LSEは日本の一橋大学のように理系学部がない大学なので、総合ランキングはQSで世界38位となっています。イギリスのオックスフォード大学、ケンブリッジ大学と比べ日本での知名度は劣りますが、間違えなく世界のトップ大学の一つです。ノーベル賞19人、53人の各国首相、大統領、国家元首を輩出しています。私の所属する明治大学政治経済学部はLSEサマースクールと学部協定を結んでいたため、この上ない機会ということでLSEを留学先を選びました。LSEという素晴らしい大学にサマースクール留学でき、非常に嬉しく思います。</p>
大学・学生の雰囲気	<p>LSEはロンドン中心部にあり、大英博物館など近くに有名な施設が数多くあります。社会科学に特化した大学なのでキャンパス自体はそこまで大きくはありませんが、コンパクトにまとまっている分、建物間の移動にそこまで時間がかからないというメリットもあります。観光客もそこまで多くはないので、勉強に集中できます。</p> <p>次に学生の雰囲気ですが、サマースクールにはLSEの学生がいないのでLSEの学生はこうとは言えません。LSEのサマースクールには今年8,000人ほどが参加しましたが、一番多いのがアメリカ人で全体の5割ほどを占めます。そのほかはヨーロッパからの学生とアジアからの学生が約2割5分ずつという感じでした。初めの7週間では一度も日本人を見かけませんでした。恐らく8,000人中日本人は私を含め3人ほどだったと思います。LSEのサイトでどこの大学からサマースクールに多く参加しているか見ることができ、UCバークレーやUCLA、Yaleの学生も多いです。しかし、一般化は良くないですが、夏休みにイギリスのサマースクールに行き旅行もできるなんて、最高のバカンスだという気分である人も多いです。というのは、彼らが母国で通っている大学では当たり前ですが英語で授業をしていますし、普段の学期ではよい成績を取ろうと必死で勉強しているので、むしろこのサマースクールくらいはゆっくりしたいというのが多くの人の本音です。私を含め恐らく、ほとんどの日本人学生は海外サマースクール留学では、英語も難しい、授業の課題も多いと普段と環境が大きく変わり、「よーしやるぞ」という意気込みで留学に行くでしょう。しかし、彼らアメリカ人にとってそこに大きな変化はないようでした。</p> <p>アジアからの学生は中国人が圧倒的に多いです。少なくともLSEサマースクールでは、日本人の500倍の人数がいました。中国の人口を14億人とすると単純に日本人より10倍多いだけのはずですが、LSEではなぜここまで人数に大きな差がでるのでしょうか。日本の大学の春学期が世界のほとんどの国の地域とずれていて、システム的にサマースクールに参加しにくいというのが一つあると思いますが、それだけではない気がします。この中国人との関わりを通して、多くのことを考えました。これも私にとって今回のLSEサマースクールのハイライトの一つです。</p>
寮の雰囲気	<p>私は、初めの1週間の英語準備コース時はBankside Houseに、その後本セッションの9週間はHigh Holborn Residenceに滞在しました。どちらの寮も綺麗で、快適でした。本セッション時には、7個ほどの寮から自由に選べますが、High Holborn Residenceはキャンパスから徒歩10分ほどと近く、受付の方も丁寧で、さらに朝食を寮内で食べられるので寮選びに迷っている方は、High Holborn Residenceをお勧めします。</p>

交友関係

世界のどこにいても私という人間は私でしかなく、大幅に性格が変わることはありませんし、そのままが良いとすら思います。私は一緒にいて心地よい人と一緒にいたいです。私は内向的な性格で、日本でも飲み会に行くのが好きではありません。苦痛です。一対一で深い会話をするのは好きですが、大人数でわいわいするのが苦手です。変わろうと試みましたが、それが変わることはありませんでした。故にそれが海外になっても変わることはないです。寮の地下で大量のお酒でパーティーをしている欧米人は元気だなと通りすぎるたびに關心していました。もちろん、それを否定しているわけではなく、そのように勉強とメリハリをつけながら、時にみんなでパーティーで騒ぐのもその人たちにとっては魅力的で自分の好きなことをするその人たちの瞳から良い刺激をもらいました。ただ私は、1ミリもパーティーに参加したいとは思わないのです。日本で飲み会が苦手な私が海外に行ったところでそれが急に変わることはないのです。では、交友関係がなかったかというそういうわけではありませんでした。世界の人口が約77億人いることからわかるように、自分と気が合う人は必ずどこかにいるのです。私にとってそれは中国人でした。初めは英語が向こうもネイティブではないから付き合いやすいんだと思っていましたが、そうではなくただ性格が合う人が多いという理由でした。私は、中国系アメリカ人、台湾系アメリカ人で気が合う人にも出会いました。ルーツの問題なのでしょうか。故に英語がネイティブでないから付き合いやすいという説はなくなりました。フランス人などヨーロッパ人の中でも気の合う人を見つけるのは難しかったです。去年のバークレーの留学報告書の交友関係欄で私は、「これからは私も欧米系の人を理解して」と書いていましたが、結局1年たっても変わっていないですね。それでも、中国人には本当に気が合う人が多いです。何かお願いがあると彼らは優しく答えてくれます。私のこの性格も認めてくれます。外向的でなくても尊敬を持ち接してくれます。自分に優しくしてくれる、気が合う人はどこかに必ずいます。私はそういう人を大切にしていきたいです。そういう人に感謝と愛情を伝えて、そういう人に幸せを届けたいです。



<p>困ったこと、大変だったこと</p>	<p>相変わらず英語力が足りず、日常生活で苦労することがありました。私は、上記の各授業の感想で書いたように、ネイティブに混ざりトップの成績を収めることができましたが、レストランやファストフード店での注文は今でも上手くいきません。ファストフード店の「サブウェイ」の注文などはいまだに苦労だらけです。なんとか IELTS 7.0、英検 1 級くらいだとサブウェイの注文は上手くできません。私は、あと何年したら、英語圏のサブウェイで問題なく注文できるのでしょうか。改めて、英語は専門会話より日常会話の方が圧倒的に難しいと実感しました。その他にも、私はよくスターバックスにサンドイッチを買いに行ったのですが、店員の英語が上手くない客に対する態度が恐ろしいです。露骨に嫌な顔をしてきます。お昼時で忙しいのはわかりますが、もう少し優しく接してほしいです。英語を母語とする人は世界に 3.3 億人しかいないことをわかってほしいです。英語が完璧に話せなくても、優しい目でみてほしいです。世界の共通語が日本語とまではいなくても、中国語くらいになったら、彼ら英語ネイティブスピーカーももう少し理解を示してくれるのかなと思いました。</p> <p>これは困ったことではないのですが、私は 100%日本人なのにも関わらず、中国人に間違えられる頻度が異常なほど多かったです。欧米人が日本人、中国人、韓国人を見分けられないのは理解できます。私がフランス人、ドイツ人、イタリア人をみただけで見分けられないのと同じです。しかし、中国人学生やレストランの中国人、見知らぬ中国人のおじさんまで中国人の方達が私にいきなり中国語で話しかけてくるのです。2 か月半の滞在中、35 回ほど中国語でいきなり話しかけられました。私は、一度寮を掃除しているイギリス人に「ニーハオ」と意味もなくいきなり言われた時は不快でしたが、中国人に中国人と間違われても全く不快には思わないのです。私が明治大学の第二外国語の授業で習得した入門レベルの中国語で「我是日本人。」と返すのがお決まりのパターンでした。たしかに LSE サマースクールには日本人の 500 倍の中国人がいたので、東アジア人は基本中国人と見なすのはなんとなくわかります。しかし、私が日本食レストランに行ったときに、店員が中国語で説明を 10 秒くらいして、私が「私は中国人ではない」と言ってやっと気が付いた時には、私は本当は中国人なのではないかとさえ思いました。日本食レストランに行ったときくらいは、日本人だと認識してもらいたかったです。ここまでくるとなんだか滑稽に思えてきます。このことを、セッション 3 で同じクラスだった日本人に話したところ、「俺は SOAS というロンドンの大学に 1 年間交換留学していたけど、一度も中国人と間違われてたことはない。」と言っていました。私は 2 か月半で 35 回ほど間違われたので、ほぼ 2 日に 1 回ペースです。私だけなぜか特別頻繁に中国人に間違われるみたいです。繰り返しになりますが、私は交友欄にも書いたように基本的に中国人に好意的な印象を持っているので、「中国人に」中国人と間違われても嫌ではありませんでし、むしろ途中から楽しくなってきました。ただ、終盤からなぜか一周回って、中国人に間違われる割に中国語を満足に話せない自分を恥ずかしく思うところまでできてしまいました。いずれは、間違われた時にそのまま流暢な中国語を話して、何事もなかったかのように流すところまでいけたら面白いと思います。</p> <p>もう一つ感じたこととして、グローバリゼーションとは何かがあります。私はグローバリゼーションという言葉が好きではありません。もっと正確に言うと西欧人が使うグローバリゼーションという言葉に違和感を覚えます。よく「アジアの台頭などから、グローバル化が進み貿易が発展」のような言葉を彼らが言っているのを聞きます。しかし、いざよりミクロの面、人と人との関係でみたときに彼らは十分なリスペクトを例えば私たちアジア人に示しているのでしょうか。1 度食堂で中国人学生が種類の注文をしていましたが、英語が上手くなく、少し手間取っていました。そして、その中国人の彼が野菜を麺の上にのせてくれと言うと店員は、セルフサービスだから自分で取るようにと言いました。その前までは野菜を店員がのせていたのにも関わらずです。明らかに店員にしか届かないところに置いてありました。そこで私は、手を思いきりのぼして、その野菜をその中国人学生がとりやすいところまで引っ張りました。するとその中国人の彼は私をみて、「谢谢。」と言いました。私は何か悔しさに似たものを感じ涙が出そうでした。西洋人が私たちアジア人をミクロの人間関係の部分でリスペクトして初めて、本当の意味でのグローバリゼーションが達成できるのだと思います。日本でも、白人観光客、白人の留学生に対して、おもてなしの心をもって優しく接する人が多いと思います。それはそれでよいことです。しかし、中国人、韓国人、ベトナム人など同じアジアから日本に来て働いている人や留学生に対してはなぜかネガティブな印象を持ち、白人に対するそれとは違う厳しい接し方をしている人が日本にいるのも事実です。私はそれを変えたい。そして、日本、そして世界中で本当の意味でのグローバリゼーションが達成されると嬉しいですし、私も貢献してきたいです。</p>
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習内容・勉強について	<p>トップスクールのサマースクールで英語ネイティブに混ざりながら、トップの成績を取ることができたことです。エッセイでは、国際関係学の授業で履修者44人中1位と開発学の授業で履修者48人中2位を取ることができました。英語のハンデがあってもやり方次第ではネイティブのアメリカ人学生よりも良いエッセイを書き、2時間の論述試験でも結果を出し、トップの成績を収めることができるのだと自信になりました。海外大学院進学への適性を確認でき、私でも向こうでやっていける素質は少なからずあると知れたことが良かったです。</p> <p>また、改めて私の人生の軸となる生き方を知れたのも良かったです。それは「時間をかけてでも、人の2倍はやること」です。セッション1で思うような成果を出せなかった時に落ち込みました。自分自身頑張ったと思っていました。自分にできないはずがないと。しかしそこで自分を見つめ直した時に、どこか甘えている、力を抜いている自分がいました。私は器用な人間ではありません。どちらかというと不器用なタイプです。明治大学の友達やLSEにいた学生の中にはスマートに物事をこなす人がたくさんいました。羨ましいと思うこともあります。私は不器用なのでそうはなれません。しかし、不器用なら不器用なりのやり方があると気が付きました。私は勉強だけでなく様々なことにおいて、人の1.5倍やってやっとなら平均くらいになり、2倍やってようやく人より少しだけできるようになります。3倍やるとようやくはつきりとした違いが出てきます。</p> <p>このことをセッション1終了時に自覚し、セッション2,3の6週間はこのことを意識して留学生活を送りました。帰国後も、“時間をかけてでも、人の2倍はやること”を常に念頭に置いて過ごしていきたいです。</p> <p>目標ができたのも良かったです。セッション2のPower Shift（国際関係学）の授業でReadingの課題として毎日2,3の論文を読んだときに、その著者の偏りに違和感を覚えました。私は、基本的に論文を読む前に著者をグーグル検索するのですが、そのほとんどがアメリカ人やイギリス人の白人でした。国際関係学、国際政治学という分野は世界中を扱います。アジア、中央、東欧その他様々です。にも関わらず、ほとんどアメリカ人やイギリス人というのに違和感を覚えました。私が愛読しているオックスフォードでPhD生をしていらっしゃる日本人の方のブログ内でもIR(国際政治)の有名な理論家はほぼ100%がアメリカ人やイギリス人の白人ということでした。私はそれではこの分野の研究、教育に限りがでてくると思います。そこで私は、ならば私がその状況を変えようと考えようになりました。将来、アメリカで教授になって、アメリカの大学で学生を教えてみたいですし、この分野の学者の本来あるべき多様性に日本人そして、アジア系アジア人として貢献したいと思っています。</p>
課題・試験について	上の学習内容・勉強についてを参照して下さい。
大学外の活動について	LSE サマースクールは、3週間で1学期分の授業をこなす非常に密度の濃いコースです。故に課外活動を行うことは非常に難しいと思います。課外活動を行い人にはあまりおすすめるプログラムではありません。10週間の留学中は、大英博物館、オックスフォード大学、近くの映画館、扇風機を買いに家電料品店くらいしか行きませんでした。全てのセッションが終わった後、6日間ユーロスターという鉄道でフランス・パリとベルギー・ブリュッセルを旅行しました。

留学を志す人へ	<p>最後まで大変長い文章をお読み頂きありがとうございました。私が去年書いたパークレーサマーセッションの留学報告書も平均的なものの5倍はあったと思いますが、今回のものは更に長くなり私的な考えも書きました。私は、例えば UC 系サマーセッションの留学報告書約40冊を全て隅から隅まで読みましたが、ここまで長く、詳しく私的感情まで書いてあるものはなかったですし、今後そうする人もいないでしょう。この報告書は正直なところ将来の私が振り返って、あの時はこんなことを経験して考えていたなと回想できるようにと思いを込めて書きました。</p> <p>最後になりますが、これから留学を志す人へこれだけは知っておいて欲しいと思うことをお伝えして結びとします。留学には各自様々な目的があると思います。一人一人の留学の目的は個性豊かでどれも素敵です。これは間違いといったことはないと思っています。勉強するのが留学の目的の人、世界中の学生達と交流するのが目的の人、または放課後や週末旅行するのが目的の人、学外で何かボランティアをするのが目的の人、皆素敵で輝いています。自分で決めた留学の目的を最後まで貫けばそれで良いのです。私は今回、明治大学卒業後に政治学で海外大学院に進学するかどうかを決めるというのが目的だったので、LSEでの10週間を勉強に全て注ぐような気持ちでイギリスへ渡航しました。本セッション開始後4週目から最後の9週間目までは毎日、夜12時の図書館閉館まで勉強し、一人で夜道を歩いて帰りました。さすがに12時になると図書館に残っている学生もほとんどいません。それでも最後まで楽しかったですし、一人で帰り道、人もほとんどいなくなった夜道をスピッツの「ロビンソン」や中島みゆきの「糸」を歩きながら口ずさみ寮に帰ったことは、一生忘れないと思います。</p> <p>私は今でも、人前で自分の知人皆に自分が思っていることを正直に言うことにためらいを感じています。この報告書に書いたことの半分も言えません。私の知人がこの報告書を読むことは恐らくないと思っているので、全て正直に書きました。今、これを読んでいる皆さんに伝えたいことは、自分の一番の味方は自分自身で、どんな時でも自分を信じ続けられるのも自分しかいないということです。留学報告書ということで留学に絡めると、海外に留学中楽しことつらいことがあると思いますが、最後まで自分の可能性を信じることは止めないで下さい。それともう一つ、私はこの留学で自分を理解してくれる人、その人たちの前では私が正直でありのままにいられる人たちがいるのだと気がきました。日本にいたら、その母数は1億3千万人です。留学して海外に出たら、その母数は圧倒的に増えます。そして、そこには私を受け入れてくれる人達がありました。その人たちがくれた優しさ、愛情は他のどんなものにも負けないものでした。私を救いました。だからこそ、私はこれからもその人たちに全力で幸せ、愛情を届けていきたいと思っています。皆さんも留学で、生きる上であなたにとって大切な何かを見つけれられるよう心から願っています。</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	ディスカッションクラス	ディスカッションクラス	ディスカッションクラス	ディスカッションクラス	ディスカッションクラス	睡眠	睡眠
	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	自習	自習
午後	講義	講義	講義	講義	講義	自習	自習
	講義	講義	講義	講義	講義	自習	自習睡眠
夕刻	自習	自習	自習	自習	自習	自習	自習
夜	自習	自習	自習	自習	自習	自習	自習

